故　名誉員　前会長

吉田徳次郎博士の業績

日本学士院会員 九州大学名誉教授 元東京大学教授　吉田徳次郎博士は，9月1日，忽焉として逝去せられました。わが国工学界のため，まことに痛惜の念にたえません。

先生は明治 39 年，石川県立第一中学校を御卒業後，第四高等学校をへて明治 42 年，東京帝国大学工科大学土木工学科へ進まれ，同 45 年，首席の成績をもって御卒業になり，設立間もなき九州帝国大学講師に望まれて赴任され，大正3年助教授，同 13 年教授に任ぜられました。この間，大正8年より満2年間欧米へ留学，大正 11 年には工学博士の学位を授与せられております。昭和 13 年東京大学教授に転じ，同 24 年退官せられるまで，実に 37 年の長きにわたりコンクリート工学の研究に専念され，数多くの研究成果を内外に発表せられるとともに，風格高き講義と高潔なる御人格をもって子弟の教育にあたられ，その薫陶をうけた学生は枚挙にいとまなく，それぞれ土木技術を通じて社会国家に貢献しているのであります。

また先生は6編の名著を通じて広くわが国コンクリート工学の進歩に寄与せられるとともに，多くのコンクリート工事現場に直接のぞまれた上，自己の御研究にもとづいた適切な指導を与えられるなど，わが国コンクリート工学が今日の隆盛をきたしたのは実に先生の偉大なる業績に負うところ極めて大なりと申すべきでありましょう。

先生の御研究は，コンクリートの配合，練り混ぜならびにウォーカビリチー，コンクリートにおける材料の分離，新旧コンクリートの接合，寒中コンクリート，最高強度コンクリート，プレストレスト・コンクリートなど広範囲におよび，それぞれ世界の最高水準をゆく研究業績を示され，最高強度コンクリートの製造方法については土木学会賞を，コンクリートのウォーカビリチーを測定する落下試験方法に対してはオランダの万国博覧会より賞牌を受けておられます。

さらに特筆すべきは，わが国コンクリート工事にあまねく適用されている土木学会コンクリート標準示方書作成のため，昭和6年から昭和 33 年の第四次改訂に至るまで，先生の卓抜なる学識御経験をもって熱心に当られたことであります。昭和 25 年，九州大学名誉教授，日本学士院会員におされ，26 年にはニューデリーの第4回世界大ダム会議へ日本代表の一員として参加され，33 年にはニューヨークの第6回世界大ダム会議へ出席，論題第 21 の総括報告を行なわれました。

土木学会にあっては各種委員会委員，コンクリート常置委員会委員および委員長として病にふされるまで活躍され，昭和 17 年に副会長，24 年には第 37 代会長として広く土木界全体の御指導に乗り出され，終戦の混迷いまだ去らざる土木技術界を常道に復せしめるため揮身御尽力をいただいたのであります。昭和 34 年には斯界のため貢献せられた功績まことに顕著なるをもって土木学会名誉員に推挙せられました。なお昭和 34 年 11 月3日，日本標準規格の制定に多年尽力せられた功績により栄えある藍綬褒賞をうけておられます。

先生が指導された各種の構造物は，関門鉄道トンネル，九州電力塚原ダム，鴨緑江の水豊ダム，神奈川県の与瀬ダム，関西電力丸山ダム，電源開発佐久間ダム，東京都の小河内ダム，関西電力黒四ダム等々でありまして，いずれも，わが国の最高技術を要求された工事であります。これらの工事には先生が心血を注がれた施工方法を採用しているものが多く，明日の技術への一連のつながりを与えているのであります。

逝去にあたり特旨をもって正三位勲一等に陞叙せられ，栄誉ある瑞宝章を授けられましたことは，教育，学術，産業など，各界のコンクリート工学上に残された先生の偉大なる御業績を十分に物語るものでありましょう。

ここに紙上より全会員を代表し深く哀悼の意を表しますとともに，御冥福を心から御祈り申上げます。

【土　木　学　会】